研究課題　中世信越地域寺社所在史料に関する調査・研究

研究経費　三万八五七円

研究組織

　研究代表者　　　前嶋敏（新潟県立歴史博物館・専門研究員）

　所内共同研究者　鴨川達夫・村井祐樹

　所外共同研究者　高橋一樹（武蔵大学人文学部・教授）・田中聡（国立長岡工業高等専門学校・教授）・福原圭一（上越市公文書センター・上席学芸員）・村石正行（長野県立歴史館・学芸員）・原田和彦（長野市立博物館・学芸員）

研究の概要

（１）課題の概要

　中世の信越地域は、その境界領域として、多くの権力が入り込むかたちとなっていた。とくに北信濃は、中世においては越後守護上杉氏権力の分国としてその波及下にあったことが推測されるが、いっぽう弘治四年（一五五八）正月に武田信玄が信濃守護職を獲得して信濃国の実行支配の正当性を得たことにより、同地域をめぐって上杉氏・武田氏の争いが激化していったことが指摘されている。そのため、同地域にはそれぞれの権力と結びつき、現在まで上杉氏・武田氏等に関する古文書を伝える寺社が多く見られる。  
  
信越は国境に分断されつつも関連性を持ち続け、一体的に展開した地域である。上記の点は、一つの地域がさまざまに入ってきた権力といかに関わっていたのかをうかがううえでも注目される。そこで本研究では、信濃国・越後国に所在する、上杉氏・武田氏等にゆかりの寺社所蔵の史料を主な題材として、とくに中世における同地域と権力との関わりについて調査・研究を実施する。

（２）研究の成果

　本研究では、中世信越地域の寺社等をめぐる各地の動向を検討するための史資料原本の調査として、次の古文書群の調査を行い、また記録撮影等を行った。本研究で撮影した文書群は以下のとおりである。  
  
　◎長野県内調査  
  
　　　「個人所蔵文書」「真田宝物館所蔵史料」